

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

血小板減少と破砕赤血球を呈している患者における、
TTPの診断に有用な臨床的特徴についての後方視的研究

1. 対象となる患者さん

2010年1月1日から2025年9月30日の間に、奈良県立医科大学総合診療科を受診し、血液検査で血小板減少と破砕赤血球を認めた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 総合診療科 浅田 萌

3. 研究の目的と意義

血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）は、無治療では致死率が約90%に達する疾患であり、すばやく診断し治療を開始することが非常に重要です。その診断には血液検査で“ADAMTS13活性”というものを測定する必要がありますが、結果がでるのに通常数日を要します。このため、当日中に出る血液検査の数値や全身状態などから“PLASMICスコア”というものを算出し、TTPらしさを見積もり、治療にあたることがしばしばあります。しかし、PLASMICスコアを満たしていてもTTP以外の疾患である場合があり、診断に難渋する症例もあります。本研究では、TTPを疑われた症例の分析を行い、その臨床的な特徴をまとめ、迅速なTTPの診断の一助とすることを目的とします。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、最終診断がTTPであった患者さんと、TTPという診断ではなかった患者さんとの臨床的な違いを評価します。

5. 使用する情報

- ① 問診や診察から得られる所見；年齢、性別、身長、体重、既往歴、家族歴
- ② 血液検査所見：初回治療開始時および診療経過中に、診療の一環で行った血液検査について以下の項目を収集します。
 - a)末梢血全血球計算（白血球数、白血球分画、赤血球数、ヘモグロビン値、血小板数、破碎赤血球、網状赤血球数）
 - b)生化学検査（血沈、CRP、AST、ALT、LDH、ALP、 γ GTP、BUN、CRE、T-Bil、D-Bil、I-Bil、ハプトグロビン）
 - c)凝固検査（PT、APTT、Fbg、FDP、D-dimer、SF）
 - d)免疫学的検査（抗核抗体）
- ③ 尿検査所見：（一般、沈渣、タンパク定量）

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2026年4月30日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 総合診療科 浅田 萌

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：asamo12@naramed-u.ac.jp